脱炭素とサッカー

教育研修部 参与
長谷川陽一
HASEGAWA YOICHI

昨夏は暑かった。昨年からJWセンターで講習会の業務に携わっているが、全国どこでも酷暑である。環境省が提唱する脱炭素につながる国民運動も説得力のあるところだ。私はサッカー観戦が好きで、トリコロールがチームカラーの球団を追っかけ、昨年も全国12のスタジアムを訪問した。日本では、夏場もサッカーの試合があるのだが、この酷暑は、サッカーの質を落とすだけでなく、選手の生命の危険が指摘されているほどだ。

Jリーグのチームでも、練習場の人工芝の破片を集め、練習に使うマーカーコーンにアップサイクルするなど、環境問題に積極的に取り組んでいる。しかし、スタジアムを訪問して感じるのは、試合終了後に一斉にでてくるプラカップや弁当容器等のごみの分別の状況が、決してほめられたものではないということ。チーム側の対応もあるが、私も含めファン・サポーターの意識の向上が必要だ。

冒頭に戻るが、2050年カーボンニュートラルに向けた国民運動についても、国民一人ひとりの意識が脱炭素社会達成への重要な鍵になるのは間違いない。どうすれば、みんなが本気になってくれるのか、悩ましいところだが。

編集後記

明けましておめでとうございます。

新年号にあたり、環境省環境再生・資源循環局の角倉次長、同局廃棄物規制課の松田課長より年頭所感をお寄せいただきました。

「事業報告」では、電子マニフェスト情報について、利活用のための可視化、ツール提供の状況等を紹介しています。引き続き、国の政策への対応、及び利用者の利便性を両立しながら資源循環に資するデータとしての活用方法を検討していきます。

次に、講習会・研修会事業では、2024年度の講習会実施方針について、対面形式を2～3割に拡大するとともに、主要都市のみで開催していた講習会の一部を全都道府県で開催いたします。

今回が最終回となります白井グループ（株）様の「コラム」では、収集運搬の現場から見た循環型社会の形成に向けての課題、解決策としての廃棄物処理業のDXについてご紹介いただきました。現場を知り尽くしているからこそ具体的なイメージをもって未来を見ていらっしゃいます。4回に亘りご執筆いただいた白井グループ（株）様に御礼を申し上げます。

酒井様の「連載講義」は、本号では『自動車リサイクルと再生プラスチック素材利用』について、廃自動車の有する資源価値と環境負荷、EU再生プラスチック素材利用促進の動き等についてご解説いただきました。2022年春号から8回、『資源循環・廃棄物管理と脱炭素社会構築』に関連したテーマを採り上げ、ご執筆をいただきましたこと感謝申し上げます。

最後になりましたが、電子マニフェストユーザー事例紹介にご執筆いただきました仙台市様、本誌の発行に際し、ご執筆、ご協力を賜りました皆様方に心より御礼申し上げます。

本年も産業廃棄物の適正処理、循環型社会の形成に向けた情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（広報室）

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail：jigyo@jwnet.or.jp）

〈アンケートへのご協力のお願い〉
より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL **https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html**

JWセンター情報（季刊）VOL.23 NO.4 発行日：2024年1月15日発行 発行人：関　荘一郎
発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター
〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号 上野フロンティアタワー13階
TEL：03-5807-5911 FAX：03-5807-5912 https://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷：大日本法令印刷株式会社